

モードの社会史 日欧の比較研究

Sociology of Fashion, comparative studies between Japan and Europe

プロジェクト代表者:ベルトラム・ラース 准教授 (教養学部)

英語表記 Lars Bertram Assistant Professor Faculty of Liberal Arts

1. ヨーロッパに生まれ、近代日本に浸透したモードの及ぼす文明論的な諸問題を、哲学、歴史、美学、社会学など多角的な見地から明らかにし、それをもとにポスト・モダン以降の社会のなかで「モード」の果たす役割とその新たな可能性を模索することを目的として研究を進めてきた。
2. プロジェクト研究経費の助成を受けて行った研究の成果は、特に2007年6月にハンブルク大学へ提出した博士論文 *Die Ausbreitung der westlichen Mode in Japan mit besonderer Berücksichtigung der Heisei-Zeit* として結実した。本論文は、とりわけ服飾史を中心に明治時代以降の西洋モード導入の過程を歴史的に跡づけるとともに、平成期において顕著になりつつある日本からのモード発信の可能性を論じたものである。この仕事はハンブルク大学アフリカ・アジア研究所において高い評価を得、博士論文として受理された。
3. この成果を得るにあたっては、諸文献の収集、データの整理、分析等の過程で研究助成金が大いに力を発揮したことはいうまでもない。
4. 今年度の研究成果をもとに、今後はヨーロッパと日本におけるモードの歴史を実証的に比較考察することを通じて逆に両地域における「近代」の構造的差異を浮かび上がらせ、あわせてグローバリズムのなかで特にアジア地域におけるモードの未来像を描き出して行きたい。